

ヒトラー ～最期の12日間～ (2004)

DER UNTERGANG
DOWNFALL

メディア 映画

ジャンル ドラマ 戦争

製作国 ドイツ/イタリア

色彩 Color

時間 155分

初公開日 2005/07/09

公開情報 ギャガ・コミュニケーションズ

【キャッチコピー】

彼の敵は世界

全てを目撃した秘書が今明かす、衝撃の真実。

【解説】

ヒトラーが地下の要塞で過ごした最期の12日間に焦点を当て、彼の個人秘書を務めたトラウドゥル・ユングの目を通して歴史的独裁者の知られざる側面を浮き彫りにしていく衝撃の実録ドラマ。監督は「es [エス]」のオリヴァー・ヒルシュビーゲル。主演は「ベルリン・天使の詩」「永遠と一日」のブルーノ・ガンツ。歴史家ヨアヒム・フェストの同名ノンフィクションとヒトラーの個人秘書ユングの回顧録を原作に、戦後最大のタブーに真正面から挑んだ問題作。

1942年、トラウドゥル・ユングは数人の候補の中からヒトラー大統領の個人秘書に抜擢された。1945年4月20日、ベルリン。第二次大戦は佳境を迎え、ドイツ軍は連合軍に追い詰められつつあった。ヒトラーは身内や側近と共に首相官邸の地下要塞へ潜り、ユングもあとに続く。そこで彼女は、冷静さを失い狂人化していくヒトラーを目の当たりにするのだった。ベルリン市内も混乱を極め、民兵は武器も持たずに立ち向かい、戦争に参加しない市民は親衛隊に射殺されていく。そして側近たちも次々と逃亡する中、ヒトラーは敗北を認めず最終決戦を決意するが…。

【クレジット】

監督 オリヴァー・ヒルシュビーゲル Oliver Hirschbiegel

製作 ベルント・アイヒンガー Bernd Eichinger

原作 ヨアヒム・フェスト Joachim Fest

トラウドゥル・ユング Traudl Junge

脚本 ベルント・アイヒンガー Bernd Eichinger

撮影 ライナー・クラウスマン Rainer Klausmann

プロダクション
デザイン

ベルント・レペル Bernd Lepel

音楽 ステファン・ツァハリアス Stephan Zacharias

出演 ブルーノ・ガンツ Bruno Ganz

アドルフ・ヒトラー

『ヒトラー 最期の12日間』（岩波書店刊）

『私はヒトラーの秘書だった』（草思社刊）

| | | |
|----------------|----------------------|--------------|
| アレクサンドラ・マリア・ララ | Alexandra Maria Lara | トラウドゥル・ユンゲ |
| ユリアーネ・ケーラー | Juliane Kohler | エヴァ・ブラウン |
| トーマス・クレッチマン | Thomas Kretschmann | ヘルマン・フェーゲライン |
| コリンナ・ハルフォーフ | Corinna Harfouch | マグダ・ゲッベルス |
| ウルリッヒ・マテス | Ulrich Matthes | ヨーゼフ・ゲッベルス |
| ハイノ・フェルヒ | Heino Ferch | アルベルト・シュペーア |
| ウルリッヒ・ヌーテン | Ulrich Noethen | ハインリヒ・ヒムラー |
| クリスチャン・ベルケル | Christian Berkel | シエンク博士 |
| ミヒャエル・メンドル | Michael Mendl | |
| マティアス・ハービツヒ | Matthias Habich | |
| ゲッツ・オッター | Gotz Otto | |
| アンドレ・ヘンニク | Andre Hennicke | |